

執筆者 住中 光夫
システムリサーチ&
コンサル株式会社
代表取締役

マイクロソフト社のセミナーでは、多数の講師陣の中から3回連続で受講者よりNo.1の評価を受けている。企業研修、書籍の執筆など、Officeにかかわる多方面



4号連続
特別企画

知って納得! 第1回

Office活用セミナー

ビジネス利用で欠かせないソフトであるOffice。多機能で便利なこのソフトをビジネスでうまく活用するための心構えを解説する。

クライアントコンピューティングを Officeソフトで実践

「奴隷解放の時代」

今から15年ほど前にエンドユーザーコンピューティングという言葉がはやりました。それまでのオフコンや汎用コンピュータは、ホストスレーブシステムと呼ばれていました。ホストマシンが「ホスト」「ご主人」で、すべての権利と権限を持ち、システムの管理やプログラム作成などを行っていました。それに対して、現場の画面端末は「スレーブ」「奴隷」と呼ばれ、データを入力するだけで、そのデータの自由な加工や情報活用は許されていませんでした。実務の現場はまさに奴隷だったのです。

その奴隷状態を解放したのがパソコンの出現です。パソコンは実務現場の人々に自由にデータ加工や情報活用を行なう楽しみと権利とを与えました。そのパソコンを利用したデータ活用のスタイルをエ

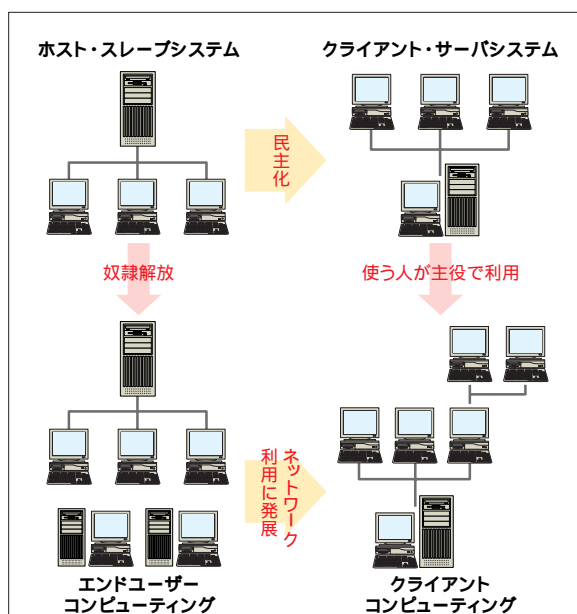
「情報活用の主役の時代」

現在はクライアント・サーバシステムの時代と言われています。サーバとは情報を提供する役割で、その語源は「サーバ」で奉仕することです。派生した言葉にサーバント（召使い）やサビス（奉仕）があります。そうです、現在のサーバは、ホストのご主人と違い「召使い」なのです。そのご主人様がクライアント（要求する人・顧客・主役）なのです。つまり現在のコンピュータシステムは使う人が主役のシステムであり、情報民主主義の時代なのです。

ネットワークでつながれたパソコンで全社的な情報活用

を行なう、その民主主義的な利用スタイルをクライアントコンピューティングと呼びます。現在のクライアント（パソコン）は、LANでサーバと結ばれ、サーバにある販売などの基幹データを利用したり、加工した情報をネットワークで配布したりできます。この時のクライアントの強い武器がOfficeソフトです。エクセルでは、サーバにある何万件のデータを分析などに利用でき、ワードやパワーポイントでは動画や音声を利用したり、Webページにして情報を社内外に発信することができます。

しかし現実的には、このような使い方はまだまだできていません。それは現在のパソコン活用の状況が、使う人々が勝ち取った奴隷解放でなく、与えられた民主主義だからです。Officeが50階立てのビルだとしたら、現在は5、10階位しか利用されていないでしょう。それ以上の利用は、パソコンの操作ではなく、使う人のビジネス知識やコミュニケーション知識により増やすことにより真の利用者となります。その必要な知識や使い方は次回に説明します。



クライアントコンピューティングは、エンドユーザーコンピューティングの発展系。ネットワークを利用して主体的に情報活用を行なうスタイル。その時にネットワークを利用して使うOfficeが大きな武器となる